

令和6年度エイズ予防財団助成事業実績報告書

実施団体	PLANET(HIV・エイズとともに生きる会)	
実施事業名	第32回 エイズキャンドルパレード	
団体代表者	小田切 孝子	
事業の目的	HIV・エイズへの正しい知識の普及、多様な「性」及び「生」が認められる社会の実現、薬害エイズの歴史を知ってもらう。	
事業の達成度	第31回よりも参加者が増え、30人に達した。学生ボランティア、京都レインボープライドの引き続きのご縁、20年ぶりの参加、初めての参加、継続の参加、海外からの再度の参加など、多様な背景の参加者となった。また、烏丸・河原町通りのお店の中に、パレード当日にレッドリボンを掲示してくださるお店が数店舗あった。	
事業実績	対象となった人数 (実数)	参加者30名、レッドリボンを配布した烏丸・河原町通りの店(レッドリボンの不掲示の店も入れる、チラシは受け取って頂いた)、リーフレットを受け取ってくれた通行人をふくめ、約50名と概算する。
	具体的な活動内容	<p>第32回エイズキャンドルパレードは、初回より第30回まで続けた形式で開催した。京都市役所前広場から円山公園まで、キャンドルを持って歩いた。パレード当日に、烏丸・河原町通りのお店にレッドリボンの掲示をお願いした。レッドリボンの掲示をお願いする活動に、大学のボランティア部の学生さんに依頼した。あらかじめ、学生さんに、薬害エイズとHIV・エイズに関する知識、性感染症に関する現状などをオンラインで話し、協力を依頼した。快諾をして下さり、上記活動およびパレード当日に参加頂いた。</p> <p>反省すべき点は色々あるが、来年に活かしていきたい。お店によるレッドリボンの掲示数は、これまでより減ったが数店舗でも掲示頂いたことを大変うれしく思った。パレード当日まで待ち、レッドリボンを店頭に掲示頂くハードルは高いと思う。</p> <p>今回、ツイッターにおける更新回数は多くはなかったが、パレードへの参加者数は増えていた。SNSにおける告知は必要だが、必ずしも「いいね」などの賛同数が増えたところで参加者数が増えるわけではない事がわかった。そのため、趣旨に賛同頂ける方々にメッセージを発信する一方で全く何も知らない学生さんにアプローチしていくという方法が啓発という意味で良いのではないかと考える。</p> <p>京都レインボープライドに参加した時の活動内容を記載する。ブース参加及び演者として参加した。ブースに立ち寄った人たちに、エイズキャンドルパレードの開催の経緯と参加をよびかけた。海外からの観光でレインボープライドのイベントに参加されたドイツ人のかたから、ゲイの人たちを恐れる人の中にはHIVを理由にする人もおり、こういう啓発活動は大事だと寄付金を頂いた。レインボープライドに演者として参加予定の高校生に、HIV・エイズの歴史と現状について話し condom を貼付したリーフレットを配布した。演者としては、代表の小田切がPLANETの歴史を振り返りパレード参加をよびかけた。今回レインボープライドという様々な背景の人たちが参加する場にブース参加したことで、今までより幅広い年代層のかたにアプローチできた。来年も参加し関心がなかった人たちに関心を持ってもらえるようにしたい。</p>
活動の様子		
<p>X(元ツイッター)に写真や文章を掲載しています。また、インスタグラムを始めました。 http://twitter.com/PlanetKyoto planetkyotohiv</p>		